

やかもち便り

編集・発行 政治に参加
できない自衛官を国民の
声で守ろう会
〒532 - 0011
大阪市西中島6丁目
3番24号D426
発行日 2016年6月2日
題字 小笠原 理恵

三回目の請願提出が完了しました

緊急出動のある自衛官の官舎の改善を求める請願」を無事190回国会に提出いたしました。署名総数は4407人。前年度より1000人以上増えました。特に今回は宮城県の隊友会のみなさんが集中して集めていただいたこともあり、あらたに宮城県の紹介議員の先生に紹介議員になっていただくことにいたしました。東日本大震災の復興が大きな課題の宮城県では震災当時の自衛隊の災害派遣の活躍もあり、自衛隊自身も被災者であり多くの建物が失われてしまったことも署名にご協力いただいた理由かもしれません。東日本大震災の復興についてご理解がある復興副大臣の経験もある西村あきひろ衆議院議員と元陸上自衛隊予備一等陸尉だった勝沼栄明議員のお二人の宮城県出身の議員さんたちに、宮城県から紹介議員をおねがいしました。また、大阪も大西宏幸衆議院議員のご賛同を得ることができました。

参議院では、これまで紹介議員を務めていただきました佐藤正久参議院議員が参議

院の外交防衛委員長にご就任、三原じゅん子参議院議員も厚生労働委員会委員長にご就任のため規則で紹介議員にはなれなくなりましたので代わりに高知県の高野光二郎参議院議員と長野県の若林けんた参議院議員、兵庫県の末松信介参議院議員に紹介議員をお願いいたしました。末松信介議員は最初の請願のときにすでに賛同をご表明いただいていたのですが、その後、外交防衛委員長にご就任のためしばらく紹介議員になることができなかったのですが、今回政府の仕事ではなく党の役員になられたので紹介議員をお引き受けいただけることになりました。

現在衆議院での紹介議員さんは自民党議員で衆議院7名、参議院4名の11人となりました。また紹介議員には議会の委員長などの仕事上のルールでられない先生方でも一旦紹介議員を離れた先生方も今もこの請願内容に賛同いただき協力していただける体制になっています。少しずつですが、自衛官が安心して任務に励めるような体制を

つくるための輪はひろがっていると感じています。これも署名にご協力いただいたみなさんや賛助会員として当会にご寄付いただいているみなさんのおかげだとおもっています。

署名用紙の印刷と配布

自衛官守る会はこの請願の内容に賛同しているスタッフ会員正会員とそれを寄付で支えてくれる賛助会員の2種類の会員で成り立っていますが、賛助会員さんが増えたおかげで今回初めて請願署名簿を数千部の単位で2回にわたって印刷することができました。宮城県で大量に署名があつめられた背景にはこれまで会員が自腹でコンビニコピー機などで署名用紙を印刷して個人的にあつめていた体制から、ある程度かためて団体に署名をおねがいできるような印刷体制を組めたということもおおきかったとおもいます。

地味な活動をしている会ですが、賛助会員のみなさんの年間3000円の会費がこういった具体的な署名数の拡大につながることをどうかご理解いただき、変わらぬご支援をおねがいします。

防衛省 熊田政務官への陳情

2015年10月28日、当時復興大臣政務官だった衆議院議員谷公一議員のご案内で防衛省の熊田政務官へ自衛官の待遇改善について直接陳情に参りました。そのとき、防衛省への陳情ということで

防衛省にいる自衛官はすべて緊急参集要員であるのに、その住宅は市ヶ谷周辺に全戸あるわけではなく多くが東京都23区以外の遠方から通う体制であること。これではいざ起ると言われている東京大震災や東南海トラフ地震のさいに災害救助の司令塔である防衛省がその人員を集めることができず、救助や支援が遅れるという問題と、自衛官の幹部たちの1、2年に1度の転勤のための引っ越し費用の多くを自衛官が自腹で支払う状況であり、その度重なる引っ越し費用の家計負担が幹部自衛官の離職につながっていることについて、まず、改善をおねがいしたいと陳情してまいりました。

復興副大臣、復興大臣政務官を歴任した谷公一議員も震災などの大きな災害時に初動がおくれれば人命がそれだけ失われることをご理解いただき、熊田政務官も引っ越しがつづき家計にそれだけ圧迫があればたしかに奥様は大変でしょうとご理解いただいたようです。

そのおかげもあり、今年度市ヶ谷の緊急参集要員のための住宅200戸について予算がとれたと聞いています。まだまだ十分ではありませんが、まず第一歩の予算がとれたことをうれしくおもいます。

この一歩を大切にし全国に広げて行けたらと思っています。

請願署名あつめについて

今回、議員会館で請願署名は衆議院と参議院は別集計なので、同じ人が衆議院

で1つ、参議院で1つ署名を同時にかけ

ることを確認してきました。同時にひとり2つの署名をかいてもらうことになるので分けて管理するのは大変ですが、それだけで2倍の署名数が手に入ります。署名をあつめていただけるみなさんはお手数ですが、1人に2枚ずつ。衆議院と参議院は分けてあつめていただければとおもいます。

また、国会の請願課のチェックがとてきまびしくなったと聞いています。同じご家庭で家族の署名をかいてくださることもご面倒ですが、おのおのその方への筆跡でかいてくださいますようお願いいたします。障害等で署名を直筆で書きに出来ないかたは、その方のご印鑑をそこについてもらえば代筆することが認められています。ご協力をおねがいします。

請願内容

<http://yakamochi.org/seigan.html>
署名用紙のダウンロードは

こちらからどうぞ (PDF)

<http://yakamochi.org/>

[newsletter/20149mamoruukai.pdf](http://yakamochi.org/newsletter/20149mamoruukai.pdf)

署名送付先

「政治に参加できない自衛官を国民の声で守ろう会」

(公式略称 自衛官守る会 事務局)

〒532 0011

大阪市淀川区西中島 6丁目3番24号

D 4 2 6

その他リンク集

自衛官守る会 公式サイト

<http://yakamochi.org/>

Facebook

<https://www.facebook.com/groups/seigan/>

自衛隊の即応体制の舞台裏

有事・災害時に備える為の日常

熊本県及び大分県での地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。また、昼夜を問わず災害派遣での任務を遂行されていた自衛隊、警察、海上保安庁及び消防の職員の皆様に感謝の意を表したいと思います。

さて、今回の震災でも自衛隊の災害派遣の初動の速さが話題となっており、その練

度の高さに多くの国民が賞賛しているところでです。これも、平素からの対処行動基準の制定や訓練の賜物だと思います。また、家族の理解と協力も大きな力になっていることは忘れてはいけません。そして、即応できるということは、それに対応できる場所での居住ということもあります。その官舎に関する現状を話したいと思います。

2年前から始まった緊急参集要員指定

サクラサク・・・現予備自衛官から

この度は九州地方における災害で被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、被災地の早期復興を心より願っております。

さて、今回の災害に際して陸海空の自衛官が素早い行動を起こせたのは、一重にご家族の御支援支援者の御支援の賜物であると感じております。これらについて私の2度の災害派遣経験を踏まえてここに拙文を寄稿致します。

今回、何故自衛隊が素早い行動を起こせたのか？ これは「災害派遣命令下達から派遣待機までの初動の全てが素早かったから」と言っても過言ではございません。これは駐屯地や基地以外に居住されている自衛官の呼集問題に関わっております。初動派遣における自衛官選定

は駐屯地基地居住者が多いのですが、階級や技能によつては初動派遣に駐屯地外居住者が選定されることもあります。その場合、命令以前に自主的に、早めに駐屯地入りされる方々が多いのが実情です。ですので官舎など近隣の居住地が、安心して普通に使用できる状態であることが一番望ましいのです。

次に、現在自衛官に対してネットで賛否両論御座いますが、任務に対しては全自衛官がそれぞれの熱意を持って当たっ

ているのは無論改めてここで述べるまでも御座いません。しかしその厳しい任務の反動は、派遣終了後に色々と発生して参ります。被災地では「色々な物事」を目の当たりにし、また実際に触れて来るので、ご家族と支援者の方々には是非PTSD予防の観点も 考慮して接して頂きたいと思っております。自衛官の隣には常にご家族の思いやりと精神的な支えが必要なのです。

あと私個人的な見解ではありますが、賞詞賞与の改善も自衛官やそのご家族に対するケアに繋がるのではと強く感じております。

これからも自衛隊へのご理解と、暖かいご支援をいただければ大変有り難く思います。

今現在活動中の自衛官の皆様と安全を願い、無事に戻られる事を祈念致します。 (注、災害派遣中の寄稿であり、5月30日で災害派遣は終了致しました。)



夢は逃げない、逃げるのは自分だ

私は自衛隊官舎で育ちました。

平時でも自衛官の子供として父が有事の際又は有事が近付いた際身を危険に晒す職務に就いているという自覚を持ちながら生活するものです。普段から一番先に攻撃されるかもしれない職場に勤めているからです。名誉ある殉職であれば、家族はその後も気丈に生きていくことが出来ます。しかし無謀な命令で家族が犬死するのは耐えられません。子供の頃から父と私達家族の運命を左右する政治の決断には敏感な子供でした。

幼稚園の頃、沖縄返還が決まりました。小学校2年になって本当に返ってきた。政治の力強さに感銘を受けました。戦争に負けて占領された領土が一滴の血も流さず一発の銃弾も撃たず返ってくる政治と外交の力は素晴らしいと思いました。その後何時かは政治家になりたいと思っていました。

しかしサラリーマン家庭の私が保守の考え方に最もあう自民党の候補になるには、「地盤・看板・カバン」何一つ無く、諦めざるをえませんでした。

その後大学を卒業し金融マンになり遣り甲斐のある仕事をしていましたが、自民党も候補者の公募をするようになり、この登竜門を挑まなければ人生後悔をす

ると思うようになりました。

私は三回大分県の自民党の公募に応募しました。初めの二回は最終選考の決勝選で落選しました。三度目の公募の手続きが決まる頃、政権交代があり自民党には強烈な逆風が吹いていました。国会議員の先生達からは、「必ず公募に応募するように」と電話がありました。私の友人達は皆「この猛烈な逆風のなか自民党から立候補するなんて小田原、気でも狂ったか。」と口を揃えて私を止めました。しかし、過去2回大分の自民党から公募で出馬しようとした男が、3度目は「逆風だから止めます」とか、ましてや国会議員になり易そうだから他の政党から出るようでは、人として信用出来るでしょうか。

厳しい戦いでしたが私は手を挙げ120人の党員の投票で117票を得て候補になりました。5か月の選挙戦で26万票弱を得ましたが、29万票取った現職に負けました。私は選挙中に重点候補となり40名の国会議員の先生方が大分に入り応援をしてくれました。

7月に落選した後、多くの国会議員の先生方が、「ここまで善戦したのに勿体無い。大分に拘泥せずとも、住んでいる東京で公募があるから応募したらどう

だ。」と背中を押されました。東京都の衆議院候補者公募に応募し、選考を2年待ちました。2012年8月になり、東京21区の候補者となりました。現職は知名度も抜群で強敵でしたが何とか比例東京ブロックで惜敗率トップの成績で当選することが出来ました。その後毎朝駅に立ち続け、2年前の総選挙では僅差ながら小選挙区で勝たせていただき二期目の当選を果たしました。

「夢は逃げない。」

逃げるのはいつも自分だ。」

私自身に常に言い聞かせている言葉です。今後も自分の信念を曲げず政治家として生きていく決意です。

自衛官の家庭は贅沢とは無縁です。定年も早く、一般の国家公務員と比べて見劣りする処遇が長い間手付かずになっています。国を守る仕事をして経済的に不利な目に遭う事があつてはなりません。有事の際に国際法上軍人としての扱いを受けられるかも定かではありません。我が国がまっとうな国になる様、力を尽くして参ります。



自由民主党東京部
第二十一選挙区
衆議院議員小田原潔
陸上自衛隊東部方面総監
の家に生まれ、財務金融、復興、自衛官の待遇
問題に積極的に取り組む。

制度。その要員に指定された隊員は駐屯地、基地から概ね2km圏内に居住しなければならぬということになりました。その代りに無料で官舎や指定された借上げのアパートやマンションに居住するという制度です。それまでは約1時間以内に登庁可能な場所に居住すればいいというような感じだったと言われています。そこで問題になっていることがあります。今までは、約1時間以内に出勤できればいいという事で駐屯地や基地から若干離れた所に自宅を構える隊員がいますが、緊急参集要員に指定されて概ね2km以内の指定場所への居住を義務付けられたため、子供がいる家族は近いのにも関わらずに単身赴任状態又は週末婚状態、また、そのような緊急参集要員が官舎に入居するため、官舎の入居を希望していても入居できないという本末転倒な状況もあるという話も聞かれます。

また、首都圏にある防衛省の隣接した官舎は数十戸であり、高級幹部しか居住できないとのこと。実務を行う隊員・職員は電車で1時間以上かけて登庁しなければならない、「大丈夫？」という状況です。更に、平成30年4月までに最高1.7倍まで宿舍費を値上げするということも決まっています。

2013年8月9日付の産経一面に、「官舎値上げ、地方で逆効果 自衛官の居率低下も 有事・災害時の即応性懸念」という記事が出ました。「財務省が昨年11月

に発表した国家公務員宿舍の家賃値上げで、地方で活動する自衛隊員の官舎への入居率が低下する懸念が強まっている」という記事です。官舎費値上げは「消費税増税を前に公務員優遇批判をかわす狙いがあった」そうですが、小泉政権時代にも『予算削減は防衛費も聖域ではない』として、一律に削減されたため、今その後遺症が現れています。そんな情勢の中で、東日本大震災や尖閣問題、海賊対処行動や南スーダンミッション、海外での訓練所要の増大、今回の熊本県や大分県の震災で猫の手も借りた状況になっているのが皮肉です。

防衛費が戦後初の5兆円越えと言われますが、これは防衛装備品の契約の仕方が年度契約から長期契約が可能となったことから増えたものであり、今まで同様、予算執行の厳しさは決して緩んだわけではないそうです。産経の記事では、「有事や災害時の部隊即応性を損なうと防衛省や自民党が反発。値上げが逆に税金の無駄遣いを招く可能性も出ている」との記事ですが、地域によっては駐屯地や基地から2km以内に官舎を作られていないところもあります。

そこで、アパートやマンションを借り上げる所が出てきているそうです。そうすると、家族用の広い部屋は予算上厳しい事から、ワンルームなどの単身用となるやに聞かれています。そうすると、ますます家族との時間も取れなくなり、予算上も負担になるのではないかと思います。

定年退職した元幹部自衛官の方から、こ

んな話を聞いたことがあります。「六本木にあった防衛庁に緊急事態で非常召集された自衛官は、どのような要領で駆け付けるかが問題になったことがあった。都心部に自衛官用の官舎は少なく、皇居守備には市ヶ谷の連隊しかなく、特に幹部は埼玉、千葉方面に自宅を構えていたから、片道2時間以上もかけて私鉄で駆け付けねばならない。しかし私鉄もJRも早朝深夜は動いていない。だから主要幹部はほとんど集まらないから、これで一朝有事の際に国が守れるのか？という疑問が生じた。」というものです。六本木から市ヶ谷に移転した平成9年以前から現在も同じ問題を抱えているという事になります。都心部の「家賃の官民格差」は著しいといえなくもないのは事実です。しかし、実動部隊が展開する地方では、この格差は小さいのも事実です。

例えば北海道では、官舎の宿舍費は2万円前後ですが、財務省の方針通りになると3万円ちょっとになります。一方、道内で同じ程度の広さの民間マンションが札幌などの都市部でも7万円程度で入居できる。民間に入居すれば2万7千円の住宅手当が入るので、自衛官の負担は官舎でも民間でも大差がなくなり、その上、通勤手当も付くこととなります。道内の官舎に入居する隊員へのアンケートで、家賃を値上げした場合、家族も含めると2万328人のうち4割の8680人が官舎から民間に移ろうと考えている

ことが判明したと産経が報じていました。例えば、震度6弱又は震度5強の地震が所管する地域で発生した場合には、令なくして登庁するそうです。また、有事になる前には段階的に警戒態勢が引き上げられていくものの、結局は何かあれば全員が登庁することとなるわけです。緊急参集要員に指定された人は近くに住んでいるにも関わらず家族と暮らせない又は転勤したら単身赴任にならざるを得ない。一方、地方では官舎に住むのも借家も家賃があまり変わらないのなら官舎の役員で面倒なことしなくていいから官舎には住みたくなないので官舎はガラガラ、はたまた都会では外に借りると家賃が高いので宿舍費が値上がりしても官舎に入りたいが官舎削減の煽りを受けて入居できないなどという状況。

最初にも述べましたが、隊員が何かあれば家族を残して国民の為に即行動します。家族の理解がなければ出来ないことです。自分に置き換えてみて下さい。あなたのご家族は如何でしょうか？「絶対に大丈夫！」というご家庭は、普段からご家族間の信頼が厚いのでしょうか？

震災対応、尖閣関連、海外派遣で昼夜、土日関係なく留守にしている隊員に対して、ご家族はどう思っているのでしょうか？隊員は、実働任務が増えた分、年間の消化しなければならぬ訓練が滞り、任務

が終われば休む間のなく、次の訓練の準備にも着手しなければなりません。また、は次の任務を付与される事もあるかも知れません。キツイのは隊員だけではなく、ご家族も同じかも知れません。亭主元気で留守がいいご家庭もある？(汗)

長々と書きなぐりましたが、厳しいお仕事だからこそ、精神的な安定がなければ十分な実力も出せないと思います。その根幹をなすものが家族を含めた生活基盤であると思います。

我々が安心して暮らせるのも、国家国民の生命財産を守ってくれている自衛隊の皆様のおかげです。彼らの待遇改善は、私達国民に還元されるものです。

自衛官自らは、なかなか訴えられない事を私達が代わって改善していけたらと思います。それは、いずれ私達に帰ってくるものだからです。

「百年兵を養うは一日これを用いるが為」

(川)

(注、災害派遣中の寄稿であり5月30日で、災害派遣は終了しました。)

編集後記

たくさんの方のお力添えを頂き、この「やかもち便り」の紙面上で、0号を入れたと三度目のご報告に辿り着くことができました。まだまだ当会の力不足で、目的の達成とまでは至っておりませんが、皆様との心の繋がりを大切に活動に邁進して行く所存です。(和)